

にひたつてくさのしら海りのよめおぼれ
あそよこはれむやふやまこけの尊はあうこ
ようておやや者のすのりたりーようさうは
此のあそむてんうらあうららのあそお家
代々お家のお軍平氏うらもふは
お段入さおおれ肉身りてまなくらささひ
そのこさわーこしお初撰集そのおのれ文
とむにー毎ーまうこのあまのこまかーこま
こまやれれこまうらうのひまらるんあせ
うらうれれまこまうらを申こまやれひ

堀川鳥羽の所討迄皆一省の所と二人ていひ傳ふる外あり其後
崇徳近衛の所討より鎌倉連教とて何れと定まらぬの傳ありけ
たるゆゑそをたゞ今が百員卒負つたぬこと以後鳥羽上皇定家家隆
のあつたにせよかきあひは教と定まらぬやう明月記も百員連教のと
あつたにせたりとて道徳とて世尊院とすといふやうかゝりて式目
にもまゝに順徳後嵯峨の兩院こといひませぬ伏見花園後醍醐の
三帝同じく所制多し後光厳院の文和の末二条大閤良基公將軍
尊氏公と語合ぬ一教とせし筑波集勅撰あり又後御院の
時茶禪閣兼良公道遙院内府實隆公とこのがたすれぬは
明應四年宗祇内勅ありて新筑波集と撰せしれしは公に
好むものなるは京都將軍と始め管領三職とあり下には
皆志源よりこれとのりし和河の堂上のもをまひ連河の幕下に
用ひしは換まるる會所の奉行とれし武家よりのもをまひ
つきは凡と傳へて應永は梵燈寛正は宗砌明應は宗祇と
相つたすもしく盛るし中にも宗祇と古今独換といひて花実
兼侍の時るれ其世の凡群の高きとたき作意のうらまを
たふとぬるぬまをたふりあるまゝとせん

一 祭句之古

祭句ハ祭端なり其詞幽秀なりと丈高仕えやむき文字教あり

其詞の如き切字入ていふもすしといひつぬるは下也但一與と
句の間に作るすし切字入ていふにあれば人のあつた切の度
るもれは義理分明るを留句の平ものなつてけりきとけりせん為
十八の切字用の其外哉留也切字と切斷の義とてけりてけり
句の切字下。留句の留と哉留、文字留、モテ留等也。手本波魚傳
連歌留句も必難句不詠矣。名所の留句も多方其國所は移る
又其國の人の對するなり也。不筑波魚川霞関等ははまを
又いふも(不苦他准る)架

一 留句之古又

留句は終句に對して付るが又添て付る也。文字留とて留や下句
終句に隨て時長と遠るとす。留もわがたをさるるを無りてハ
いふかゝらぬ也。手本波魚傳、余に下りの事と考へ留句の
本意うも下、相對付、お添付、遠付、心付、等四軒あり

一 第三句之古又

オ三六の内の内は花実傳多核の終下、留句は付るも、又高と
下意とせり、留句哉留の時哉、ニテに通心わ、オ三六ニテと
不留あり、テ留と定め守符、終句留はテ文字折合する所ハ
ラニテ守るもの内を、留、譬、留句、客脇亭主、第三相伴、

いとよみ好ことしすや

一表八句内 二季可詠、一季三季の好まらばに

一て留入らん留入に留り、同一留りの二句去也、去るをが

一二月三季の存後去嫌軽重あらず

一月ノ句ハ面八句の内是非とも一ヶ所可詠り、あはれり

一対ハ七句目限り也。● 祭句ハ五月、水無月等の天象より

一旅ノ句躰才ハ面十句の内不苦、夢、枕、都、蕨、冬、

一賦物之古夏 旅の意よりいひます也

初学按云供古以賦物為題或百員或五十員每句用其賦物

一 桑句計有賦物沙汰脇以下向不取之仍雖似無所詮聊不志

一 旧儀而已也。● 賦ハ字書ヨクハルと訓ス桑句ヨリして賦物ハ熟字

一 一宛云々つゝの也一字露頭二字及音黑白物名ヨリ

一 賦物ハ真ニ詠ひしりゆの法ヨリ也

一 當時も本式連哥ハ面十句熟字云々也 賦物の文字取換

習ひありて傳受の一ツ成ヤ

一 四季ノ句 春ト春 秋ト秋 等の同季ハ七句去也、冬キ句ハ

一 春秋ハ二句ヨリ考迄不苦 夏冬ハ一ノヨリ三ノ迄也

一 旅神祇 釈教 述懐 等の同物五句去、冬キヨリ三ノ迄

一戀句 五句去也ツキニ句リ五句追不苦 一面十四句内

一所ツキニ句リ必可詠ツキニ句リ又二所ツキニ句リあつても不苦時ツキニ句リ

一山類 水邊 居所 等ハ同物互ツキニ句リ五句去也ツキニ句リ

三句限 此三品ツキニ句リハ体用の沙汰ツキニ句リあつて体ツキニ句リとの動ツキニ句リぬ物ツキニ句リといふ

用ツキニ句リとの動ツキニ句リ物ツキニ句リといふ三句ツキニ句リツキニ句リツキニ句リ対ツキニ句リのあつて

里門庭 里庭里 里架 体用 体用 体用 此ツキニ句リ可然也

用体用 体用体 中ハ密狭ツキニ句リ又好又月物ツキニ句リツキニ句リ並ツキニ句リえ不宣也

一草木鳥獸 魚虫 等月物ツキニ句リ五句去互ツキニ句リ替ツキニ句リノ草木ツキニ句リ木鳥ツキニ句リ十虫

獸ツキニ句リ魚ツキニ句リ三句去他准之ツキニ句リツキニ句リ 二句限也

一貝鱗 獸ツキニ句リとセハ生類何ツキニ句リも二句去也

一名所地名 皆三句去ツキニ句リツキニ句リ二句限也 付合景物ハ古寄ツキニ句リノ頂末

外ツキニ句リハ為時眼前ツキニ句リあつても不詠ツキニ句リノ角田川ツキニ句リハ渡ツキニ句リノ舟ツキニ句リハ付合也

堤ツキニ句リハ不好他准之但又大名所ツキニ句リノ都吾孀ツキニ句リ篠紫越唐土夷國

中ツキニ句リハ國ノ名名所ツキニ句リ六二句去也

一衣類 五句去也 衣ノ字ハ七句去也

一寒暑 冷暖ノ句 五二二句去也

一花ノ句 尤正花ツキニ句リといハ百員ツキニ句リ三四句可詠也 似也物ツキニ句リ花ツキニ句リハ正花ツキニ句リ二面ツキニ句リヲ嫌

但雪ツキニ句リヲ花ツキニ句リ類也花ツキニ句リ艳ツキニ句リ春秋ツキニ句リ花ツキニ句リハ正花ツキニ句リノ雜也花ツキニ句リノ折ツキニ句リノ内

定坐ツキニ句リハ心ツキニ句リノ遠ツキニ句リノ意ツキニ句リノ功者ツキニ句リハ

藤句を念とよむべし。あはれる樹は十方目定坐也。定坐して詠ふ樹ハ
句よか守とよ子細なり。・花句は桜付多し。あひあつ下
花ハ短句つきては不好長句牙ハ不苦也。・諸草木の名とよむる
花の句は花も五句去也

一櫻ノ句 春ニツ、紅葉一ツ、名目一ツ、以上四ツとよむも多きハ
賞翫なり

一梅 春ツ、紅梅一ツ、艳一ツ、冬一ツ、夏一ツ以上五ツ出勝也。これも
多きハ好ましくなり

一郭公只ツ、異名一ツ又ホト、キヌキズナトツ、但声なりと結下
これも多きハ好ましくなり

一月ノ字 七句去也。秋季の月ハ百員ニハツ一表一所可詠。然
名残の裏まゝ不詠也。七ツのころ也。季と持月七ツの内也。季の
月出勝なり。年月の月の字ハ月次の月より天象はあ
らひ云の(七ツ去の月也)光、影等のあらひわらハ秋季より夏
孟ノ影、曉ノ光、月

一雪 百員ニ四ツ也。何春ツ、出勝なり。四ツ、冬斗は持
似せ物の雪ハ面ヲ嫌也

一雨ノ類、大小ノ降物あり。雨といふ字百員ニツ也。ガマアト替リ
表嫌なり。・大降物ハ、雨夕立時雨、急雨の類といふ
小降物ハ、雪、露、霜の類といふ也。名のある大小降物同一物

五句去替りテ三句去也、霧才ハ二句去

一 従身物 烟、雲、霞、露、才ハ類也、三句去此内露ハ降物ニ去

但烟ト烟七句去、松竹霜水等の烟ハ従身物ニ去也
雲リく、霞トくハ五句去

一 風躰 五句去也、嵐ハ三句吹風トテ、松、萩ハ声リハ風躰に

二句去、ツキハ羽吹等も月上
夜分ノ句 五句去、ツキニ句限也

一 朝夕時方ノ句 同物五句去、ツキ句不詠、朝ト夕替り互ニ句去
聞氣味句 二句去、声響等と結ぶ句、けきこと心也

一 行按ノ句 二句去、ツキニ句限也

一 不ノ奴ハ付句嫌也、才畢ハ二句去也

一 シ文字 過去、現在、未来のシ文字同物ハ二句去替りハ世モ嫌
ニ留リ何ぞモ二句去、ジトジモニ句去

一 本哥之古又

堀川兩度百首作者迄と本哥ハ用也、也末の撰集ハ今も本哥に
ナリ也

一 證哥之古又

本哥ハ附合も用、不也、證哥ハ一句の證ハ、少々の也、近代の
人の奇なるも、證據ハ、シテ、シテ、

一 故古又

和漢とも取用下りて、耳遠き不好方に耳列る古々の
附心も面白くき也交り

一物語ノ意心ノ句、二句去也、源氏物語大部の巻と替心と替

一前後ニ付物

吉野ノ花ハ付下り、立田ノ抱ハ付下り、更科姨捨ノ月より、
宮城野ノ萩より、道ノ船橋馬車より、篁ノ田より、
繪ノ屏風扇より、

一表十句之内可用品類

立春、若菜、梅、残雪、余寒、鶯、囀鳥、霞、長閑、ウヅ、氷解、下萌

水邊、東風、春雨、春月、朝持、柳、角鯉、大茅、若草、春駒、望日、櫻、
歸雁、永日、萬、歸鳥、春鶉、松若緑、暮春、

首夏、更衣、郊花、鶺鴒、新樹、夏草、若竹、青雨、螢、早苗、夏夜、夏月、
夕立、雲峰、暑、結清水、納涼、秋近、

立秋、残暑、冷、身入、柳散、露、雫、月、虫、萩、萩、尾花、
薄、花野、早苗、麩、稻、小鷹持、初嵐、雁、砧、野分、長夜、

菊、夜寒、冷、抱、露霜、上枯、暮秋、
初冬、時雨、霜、木葉、冬菊、水、枯野、千鳥、水鳥、風、持、冬月、

霰、雪、雲、冬梅、歲暮、
山、峯、岡、谷、林、畑、棧、

水、淹、海、浦、冲、濱、浮、洲、磯、江、溪、水、尾、次、波、蟹、川、瀨、池、淵、沢、沼、井、堤、岸、橋、舟

里、家、宿、屋、軒、戶、扉、窗、門、垣、竿、庭

砌、外面、苔、茨、木、草、叢、松、杙、森、藻、芦、竹、笹、鳥、鶴、貝、鷺、鳥、以言、九句目

旅、都、舍、関、舟、助、伎、枕、越、古、卿、類、日、星、空、天、朝、夕、暮、夜、曙、曉、野、兩、風、嵐、雲、烟、田、鐘、岩、石、真、砂、柴、孔、木、籃

蓑、燒、火、袖、袂、衣、
一体用之品大概

山類、
峯、島、阪、岡、

山、
林、峯、尾、上、谷、高、洞、岨、

同用、
棧、畑、淹、淹、ト、山類、

水、
浦、渚、濱、磯、津、沢、沼、湊、江、堤、海、冲、池、汀、岸、滝、浮、溝、井、泉、洲

同用、
水、波、清、水、氷、氷、柱、汐、井、関、舟、網、代、符、橋、築、梁、蟹

同、
体、用、外

イカ、ナド、ナニ、ケリ、カナ、モガナ、モナニ、此等、安字、モ中、モ切也
下知詞、ケセテ、ナ、ヘ、ナ、レ、ヨ、エ、ナ、此、ナ、字、切也

古人、句、十八、四字

又、ジ、ニ、ヨ、ワ、カ、ヤ

鶯や、と、と、と、の、あ、や、ハ、鳥
花の、枝、も、か、る、り、物、り、反、木、立
ニ、ま、う、の、い、ま、を、ま、う、も、な、き、き、に
い、ま、を、ハ、花、を、ま、う、ら、う、春、の、風
あ、ら、わ、い、さ、さ、さ、う、す、い、ま、の、雪
い、ま、を、色、も、ま、も、も、宿、の、梅
枝、又、ぬ、松、の、ま、か、の、沖、つ、を、せ

宗、祇、智、蘊、祇、兼、載、省、祇

イ、ク、イ、ツ、ナ、カ、ナ、ケ、リ、カ、ナ、モ、ガ、ナ、モ、ナ、ニ

二、意、より、句、す、ま、い、さ、梅、の、花
春、の、代、も、か、い、い、か、の、玉、椿
染、て、い、ろ、い、ろ、う、す、ま、の、の、さ、緑
何、も、ま、な、ま、な、う、花、さ、う、萩、の、露
ま、と、枯、と、い、つ、て、い、ろ、の、う、す、お、紫
わ、り、て、い、ろ、と、真、之、の、古、柳
又、ま、と、凡、も、物、り、り、花、さ、う、り
岩、も、も、花、さ、う、世、う、み、石、の、竹
枝、も、も、あ、の、木、ま、な、お、萩、の、花
花、盛、な、ま、と、い、ろ、る、を、ま、な、り

宗、祇、専、順、宗、祇、祇

下知詞ヶ

ナヲヨレメベテセヘ

下なるは波の花さくまきの海
わきの香ま白く遊りやらの梅
染るせお紫は流の片くれ
消やうてまきの友まて峰の雪
夕まの毛ぬひまへ風の松
降うつめま枝まて花の香
都まて付とくれ山まて
梅くにまきうちまよるのま
凡うぬ世ままこれまきの花
さるまてまよる花と海のま

、祇砌、

右十八切字也此外も数多あり疑の字をいふは
二段切三段切大廻小廻之等傳受たり
一筑波之道といふ也

古事記景行条曰号其國謂阿豆麻也即自其國越出

甲斐坐酒折宮之時哥曰

途比婆利都久波遠須疑底伊久用加泥都流

余其御火燒之老人續御哥曰

加賀那倍底用余波許々能用比余波登遠加表

是以譽老人即給東國造云々

筑波集の序にもつはの道とるは佐保川の源と汲てと書きあり

三十字并和哥とすものとのそのの神詠よりて八雲道いふ由り
片哥といふ古又

服以下継ぐ付の卷句といひ句才といひ片哥といふ也

古事記同条曰日本武尊御哥

波斯^{ハカ}祈^{イノ}夜^ノ斯^カ和^ワ岐^キ幣^ヘ能^ネ加^カ多^タ由^ユ久^ク母^モ葺^イ多^タ知^チ久^ク冊^モ

是片哥也末と継ぐる句と二条大間もつは集り片句と載るり

一本式目連歌百首

本式目ハ新式と對して舊式と云は内ハ新式より昔の法とて

連奇百員すもりの也筑波集も新式本式相ひれ付るに就尾の

花下とて百二首と訂書あり古くもりの也今も本式目と云ふ

すははらふのハ新式とてお遠まることなり

一千句ハ萬句之古又

十百員ハ千句、万句十万句、古例ありて其作法は

一百員之五十員之古又

衆端はあはせる如く、廿員ハ百員の末満尾せずして半とて終り

る相し東鑑にも連歌五十句と見えは古くもりの也

七夕は七十員の連歌といふあり

一世古之古又

四十四句連歌、始終世久といひ又世古と唱ふ百員の初折と

名残の表と合せたる如き書法也紹巴はより始り

玉見記行月すくくまひや清えり淑子あり 紹巴
夜よ今ある日四十男の午時は果てと云く是世苦也

歌 儒之古

三十六句、中書の書法折目四ツ面と裏とに六六と認る也
去嫌も心得あり世吉より好といはれへんはも古くあり

世よちせ六のむくこの花の種 兼載

全巻傳す寸三十六句と云ふなり

山柿のな津糸深よ秋のる 細川高國法名 常恒

独吟三十六句あり

一連歌撰集

勅撰

筑波集 延文元年

序者 二条太閤法基公 撰者 叔濟法師

新筑波集 明應四年

序者 西三条内府實隆公 撰者 宗祇法師 執奏 一条関白冬良公

句集

竹林抄 宗勅、心敬、專順、行助、宗伊、能阿、智蘊、

老葉、下草、菅草 宗祇集

因塵 兼載夕集、春夢草、 肖柏、
壁草 宗長、
癸句蝶、揮善集、古久癸夕集也

初学當用書目
筑波問答 石園池物語

吾孀問答 一名角田川
要心問答 日若草山
連歌至宝抄
二条大閤良其全公御作
十住心院心敬僧都作
宗祇作
兼載作
紹巴作

破邪顯正
無言抄
高野山宋食應其上入作

百負古連哥 九卷
石山百負 至德二十月十日 連衆下文

湯山兩吟 又明高二月音 宗伊 宗祇
良其云

水無瀨三吟 長亨二月 宗祇 肖柏 宗長
宗伊

有馬 三吟 延德二十月廿日 相長祇
宗祇

うらやまのふりかへりての山崎の舟
独吟 明徳八二月 宗祇

同千句 五卷 宗祇

紫野千句 年号不知 連流十文 叔瀧

三嶋千句 大明三二月廿日 豆別三嶋法集 兼祇

聖廟法集千句 明徳三二月十日 兼載

三嶋千句 永正元十月 宗長独吟

花千句 永正三三月十日 於近江 連流十文 氏祇

右百負千句の古連奇の句の仕立付合の作る句このの
うらやまのふりかへりての山崎の舟

附合可用書
付合小鏡、安心集、手引系、
水廻月、名所小鏡、袖珍奇枕、
外敷品アヒ



一會席之古式

床間と天満宮の名号と武画像と掛ら其中名号とおも崇敬
画像と其次と渡唐の像と又其次と其前と香炉と花籠と松梅との
洗米と御酒としし備ふは時に執筆を立てて讀まきし先に香を火と入る
香と炷く連衆同拜伏し祭の次に讀まれし一巡の間に自らの
向い方と出しては長句の人は礼とす下の人は答の礼とす也又執筆に
短句の人は七文字と出し又短句の人は七文字と
知し下の名残の裏うらにいては又香とす後に其主の
役をり満吟の上に概を座とすとすと又一月始の如く後伏と

外略式の會は定むるも宗匠と執筆其席の上に
和哥の講師讀師の如く右其席を指南すと
尚日の導師也身方にからるへすに

一同廿五禁制之夏

- 一 秘句と集す 一 新徳とりり 一 おもひ眠りり
- 一 大言と大語とりり 一 對を新と徳と 一 禁句とりり
- 一 高く吟りりり 一 連と系とりり
- 一 坐を但く出て概をに同じり 一 扇をきりりり
- 一 座をぬきけくまりりり 一 袴をきりりり 一 對をおもひ眠りり
- 一 諸の禮をきりりり 一 為未座好月宮花りりり

一人のりとおまきき後中として松行り 諸人未とく信真を
 一少あわるとよま集り初初々として付るり
 一序の儀言系亂り 一為富まき序意り
 一人のりとおまき曲の核まきとて出々子とてあ
 礼のりよくと作るり
 一用まきき食持細々まきり
 一執事と執て指合るり 一人のりとおまき台とて我分と
 一秀るりま人のり付るり 一白とて出々けて来り
 一我分とて忘て吟まきり

右条々大概之限連席也

長亨三年八月日

松原伊賀入道
 種玉巻 宗伊
 宗祇

連被地下のわつらひとるるて今の連被師の居とやまに花園院應長正和
 の足花下の善阿法師並ひのまきよまて地下の宗匠花のりく
 我早もいんよりをほしり也これと道とてた居るんは弟子に救済
 周阿といふ者名をぬり申す 救済被群とて和河、藤谷為相々の
 弟子は九旬余迄寿命二条大間の師と定めぬいふ世の人皆

此の如く合ひて貞治應安の頃にはけり、棟梁あり其は周阿
道と受継たり、救満、風井、少、か、り、志、れ、も、鹿苑院殿の
御点と侍れ、人皆隨へり、應永の頃、勝部師綱、道梵、阿、号、梵、行、菴
道とつけぬて、誓も勅撰加へり、一条禪閣、これ連歌、し、ゆ、り、永、享、此
頃迄あり、九十余及へり、彼灯消る、修、八、高山、民部、時、重、入、道、宗、碩、文、安
より寛政の頃、建、今、て、以、時、より、風、群、下、へ、傳、へ、り、以、道、者、も、お、り、同、時、
六人の明哲相並ひて名とひくく、種王菴、宗、祇、法師、と、の、下、風、よ、ま、て
心敬、專、順、の、よ、き、和、と、し、ひ、と、志、る、れ、れ、と、云、統、の、宗、砌、よ、う、の、傳、へ、り、
け、り、よ、い、れ、の、風、情、と、學、ひ、ぬ、る、お、い、ぬ、お、る、く、至、極、成、就、の、附、く、と、
中興の祖と後代迄も仰ぐことあるぬ、弟子の内、兼載、省、柏、宗、長、宗、碩

の、れ、上、も、也、又、西、三、条、道、遙、院、殿、道、と、尋、ぬ、ひ、く、と、い、れ、世、の、考、の
人、ま、あ、り、す、と、道、統、と、兼、載、を、傳、へ、り、と、い、れ、た、も、兼、載、省、柏、と、さ、さ、に
う、せ、て、宗、長、独、を、命、じ、り、り、り、の、祇、の、末、弟、の、宗、牧、と、の、外、は、周、桂、と
引、多、て、天、文、迄、宗、長、存、世、也、其、は、宗、牧、宗、養、父、子、相、續、て、傳、道、せ、り、
牧、の、弟、小、里、村、昌、休、あり、其、子、昌、吐、其、子、に、紹、巴、也、巴、と、の、始、は、周、桂、よ
り、多、り、休、は、隨、身、と、又、養、を、付、て、學、ぶ、り、永、録、四、年、休、没、り、同、年、
養、も、四、十、に、い、な、り、と、來、せ、り、以、宗、養、の、天、性、妙、處、と、い、て、祇、の、風、骨、是、與、
即、綿、と、せ、り、と、稱、美、せ、れ、り、か、も、い、は、り、風、群、督、と、さ、さ、り、と、世、の、人
愁、な、る、と、を、愛、み、も、て、元、龜、天、正、の、頃、紹、巴、ひ、り、り、天下、に、名、と、な、り、者
なり、豊、臣、家、に、を、伴、り、知、行、中、地、と、賜、り、法、眼、と、叙、せ、れ、り、家、武、家、よ

道と若くは家とせり休子昌吐早く父別其好巴子刻之九算と
うり何と向く志て名と衆法橋は叙せり巴志や謫居世の百
領地ともうて叱よ物いり叱子昌珠より関東に住て里村家代り
花下の宗匠と稱せり傳説の次方大は母がの如く委しく父の
考よありとこに略し志せり也

千時天保四巳年九月下旬

後學
吟阿阪昌功識



自然齋百園（多く園と書く）老人は松浦氏南庭と稱す
明治十八年歿定輪寺の末寺西光寺（小泉社）
伊豆島田に隱居し多は幼時羽白字讀
書を學ぶ本祭の添削も水口よりなり



御連歌衆東都龜戸

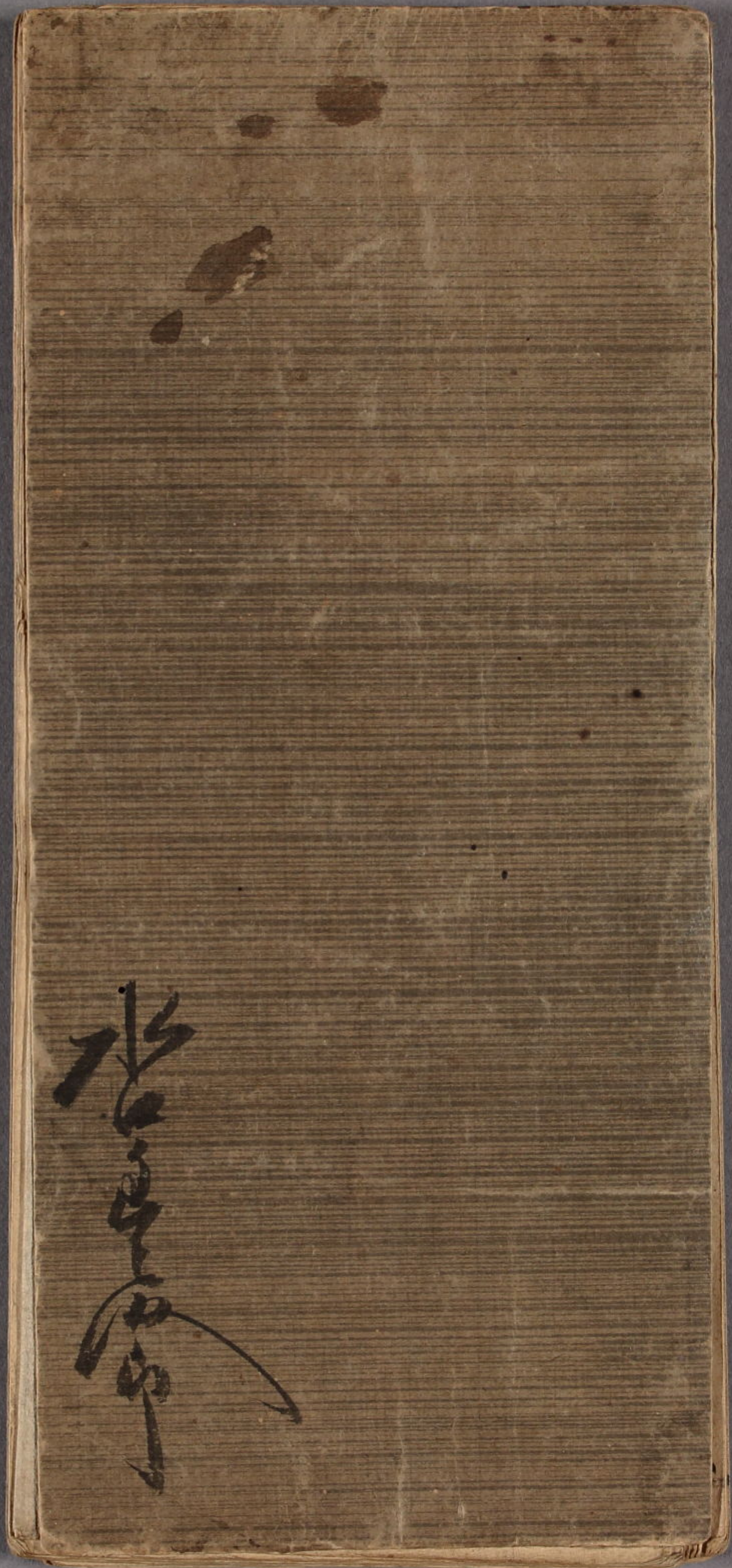
菅原氏信教様門人



駿河住定輪寺主

自然齋

百園主



水滸傳